

第22回東日本事例研究オンライン研修会 発表概要シート

法人名	株式会社 ハンドベル・ケア	施設名	介護付有料老人ホームアィムス赤羽
発表タイトル	個別性を追求する看取りケアの実践と現状 ～なぜ看取りケアに個別性が必要なのか？～		
研究の目的	画一的な看取りケアでなく、個別性を尊重した看取りケアをチームケアで取り組む事により、その方にとって良い影響や刺激を与える事、個別性の重要性を証明する。		
発表の概要	パーキンソン病を患った入居者様の当施設入居後から病状の進行により看取りとなった現在までのその人らしい生き方を、実際に本人・夫（家族）が望んだ事、その要望や希望にどのようにチームケアとして実現させたのか。事例をあげて紹介し個別性の重要性を説く。		
研究方法	本人・家族の希望とする内容を聞き取り実現に向けてチームケアで取り組む。 実際に取り組んだ事柄をプロセスレコードを活用し、振り返り、影響や変化の有無を確認する。		
成果・結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結果 <p>その方が望む事を聞き取り、月に平均で【食事したい：68回 外出したい：41回 お洒落したい：28回】要望があった。 これらの要望をチームケアで実現させた事により、笑顔の回数やADL に変化を与えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果 <p>その方の要望や希望を引き出し、実現させる事でその方に良い影響や変化を与える事が出来ると証明された。 また、チームケアで取り組む事により、要望を聞くタイミングや回数が多くなり、個別性のニーズを引き出しやすく、本人だけでなく家族とも密に接する事が出来、信頼され情報の共有を行なう事が出来た。</p>		
考察	<p>チームケアは、単独で行うケアとは比較にならない程、サービスの質に差があった。 看取りケアの対象である本人の笑顔が生活の中で増加した事。家族が喜んで感謝いただいた事から、目的であるチームケアで取り組む事で個別性を尊重した看取りケアは提供出来たと言える。 また、この事でケアスタッフのチームとしての組織力も高める結果となった。様々な価値観等が多様化する現在、自分らしく生活出来る事の意義は大きく今後ますます重要な事柄となっていく。個別性のある看取りケアは、近い内当たり前の世界になっていく必要がある。それらは、本人はもとより、提供する私たちケアスタッフにも、よい影響が多くみられた。</p>		

<p>アピールポイント 伝えたいこと</p>	<p>入居前、病院ではご飯がほとんど食べられず、胃瘻造設の話が出たが、結婚前にモデルをされていた経歴があり、身体を傷付けたくないと本人と夫（家族）からの強い思いがあり、胃瘻造設は希望しなかった。</p> <p>胃瘻造設を希望されなかったが、本人からは出来るだけ口から食べたいと希望された。</p> <p>また、入院生活で出来なかった外出やお洒落をしたい等の要望が日々聞かれた。</p> <p>これらの希望をチームケアとして何が出来るか、介護職員が中心となり、看護師・ケアマネージャー・生活相談員・訪問診療医とカンファレンスを実施し、家族の協力体制も整えケアを実施した。</p> <p>胃瘻造設による延命治療はせずとも、本人や家族の思いを尊重し希望に沿う事で食べられなかった食事が食べられるようになり、お洒落をすることや家族と出掛け過ごすことにより入居当初より笑顔がより多く見られ身体状況の変化も見られるようになった。</p> <p>残された命の時間の使い方は人それぞれの価値観や希望があって、チームケアでその方の望む希望にどれだけ寄り添い支援していくかでその方が描く最期の時までの幸せな時間や思い出が変わる。</p>
----------------------------	--